

「自分の中に揺るぎない 原点をつくつてほしい」

——念願だった、富士の麓でのユース合宿が実現しました。開催できなかつた期間の心境はいかがでしたか。

「合宿はおろか大会の開催、道場での稽古もままならない状況で、正直不安を感じていました。ですが、そいつた中でも未来を信じて、コツコツと前向きな取り組みを行なうことを組織全体で意識してきました」

——今年2月に東京・有明で行なわれた日本代表強化合宿兼ユース・ジャバーン強化合宿が、前向きな姿勢を象徴していましたように感じます。

「東京でユース合宿が実現した時は、本当に感動しました。今回の合宿の最後で選手たちにも話しましたが、世界

一の事務局の存在があつてこそ、我々は大会で結果を出すことができると思

います。その気持ちを忘れないでほし

いですね。東京での合宿開催に至るま

で、各地で強化稽古に力を入れたり

と、コロナ禍でも一步ずつ前に進んで

きました。それがボーランドでの日本

の5階級制覇にもつながったのではな

いかと思っています。そいつた期間

を経て、今回また富士の麓に集まれた

ことを本当にうれしく思います」

——世界で活躍した選手たちが、今回

ユースとして戻つてきました。

「本当にうれしいことです。彼らがユ

ースで育ち、世界の舞台で闘う日本代

表になつて結果を残し、そして自分が

います」

——合宿での経験が、今後の自分を支

える核になつてほしいと。

「はい。合宿を通して組織への愛が深

育つたユース・ジャパンにコーチとして恩返しをしてくれました。現役選手、引退した選手と立場はさまざまですが、次の世代を私たちと一緒に育ててくれています。これこそユース・ジャパンのテーマである、伝統継承ではないかと思います」

——合宿で学んだことが、世界で活かされたことも多いと思います。

「技術はもちろんですが、ユース合宿

での経験が精神的な支えになつてきらうれしいです。というのも、私が今、こうしてがんばることができているの

は、自分の中に揺るぎない原点があるからだと思っています。ユースの選手

たちに揺るぎない原点をつくつてほし

いというのも、ユース合宿の目的でもあります」

——奥村師範の原点とは?

「私の原点は、約35年前に初出場した

第4回世界大会です。夢にまで見た日

本代表の一員になり、大山倍達総裁の

直接指導を受けたこと、そして一緒に

闘つた組織の仲間への愛が、今の自分

を支えてくれています。そうした経験

の大切さを知っているからこそ、ユー

スの選手たちにも「ユース合宿に行つ

たから今の自分がある」という原点を

つくつてしまいと思っています。それが私

の願いもありますし、先述の通り合

宿を開催する意味のひとつだと思って

います」

——来年に第13回世界大会が控える中、

ユース世代への期待は?

「大きいに期待しています。ボーランド

ではユース・ジャパンから5名の世界

チャンピオンが出ました。とくに富村

日花選手と宇都宮美咲選手は現役ユ

ースということで、本当に快挙だったと

思います。歴代を見ても、若くして大

きな結果を残す選手がいました。若い

選手は吸収力がすさまじいので、合宿

を経てまた一段成長するはずです。そ

ういった若い力と中堅・ベテランの力

が混ざり合つて、強い日本代表ができ

ていくと思っています。一丸となつて

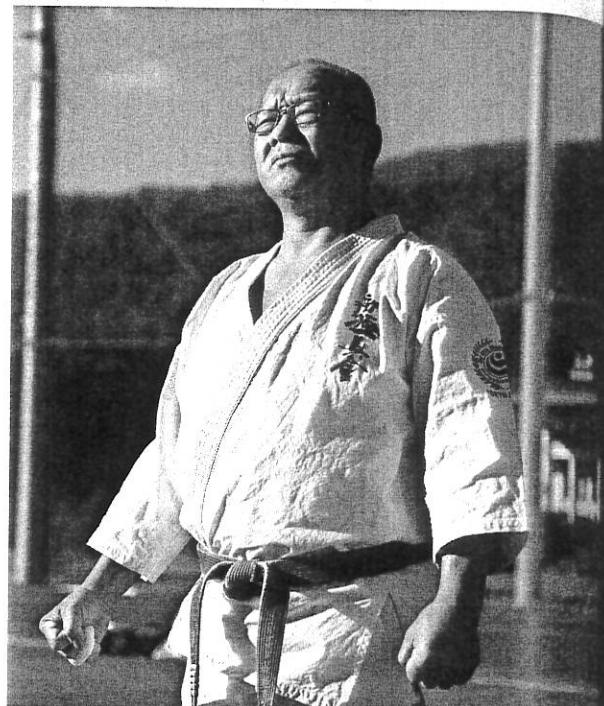
王座を獲りにいくには、ユースメンバ

ーの力も必要不可欠です。ユース・ジ

ャパンからオールジャパンへ、飛躍を

はたす選手が現わることを願つてい

ます」



選手強化副委員長

奥村 幸一